

旧鎌倉図書館の保存・活用の整備事業について

鎌倉市 こどもみらい部 青少年課

1 はじめに

鎌倉市有の建物には古い木造建築物が複数あり、それぞれ老朽化や活用の面で課題があるものが多い。ここでは、昭和11年に鎌倉町立図書館(以下「旧鎌倉図書館」という)として建設された木造建築物を学童保育施設等として活用した事例を紹介する。

2 立地について

旧鎌倉図書館は鎌倉駅西口から西へ徒歩5分ほどの今小路通り沿いにあり、御成小学校及び市庁舎に隣接している。これらはかつて鎌倉御用邸があった場所であり、今小路通りに面して、御成小学校旧講堂(昭和8年竣工・登録有形文化財)、御成小学校正門(冠木門を昭和30年改築)、旧鎌倉図書館が立ち並び、一体の景観を形成している(写真1)。

3 旧鎌倉図書館の来歴と保存活用への方針変更

旧鎌倉図書館は関東大震災で倒壊した町立図書館の再建築が財政的に難しい中、間島弟彦氏の意志を受け継いだ間島愛子夫人からの寄付により建設されたもので、旧鎌倉図書館竣工時に建立された間島弟彦氏の功績を讃える石碑が敷地内に現存している。

増築・改修を繰り返しながら、昭和49年までは図書館として、その後は庁舎として利用していたが、老朽化等のため平成26年に閉鎖し、解体する

予定としていた。



写真1 御成小学校正門と旧鎌倉図書館(改修後)

改修前は道路側や北側に増築が行われていたこと、内部の改修も複数回行われていたことから、文化財的価値は認識されていなかったが、解体の決定がなされた後、市民を始め多くの方々から提案等を受け、歴史的価値を再認識した。平成27年に解体の方針を取り止め、学童保育施設等として活用する方針に変更し、改修事業を進めることとなった。

4 改修及び増築計画

平成27年度・平成28年度に実施した耐震診断結果を踏まえ、既存部の耐震補強及び学童保育施設等として必要な諸室を確保するための増築を行うこととし、平成28年度に基本設計、平成29年度に実施設計を行った。

学童保育施設等として活用することから、外観保存を基本とし、内部については、保存に配慮す



るものの、子どもが利用する施設としての安全性や快適性、維持管理のしやすさを優先することとした。

旧鎌倉図書館は主要部分が2階建て、書庫部分が3階建ての建物となっていたが、改修にあたって、3階の床を外して全体を2階建てとし、1階と2階は昭和11年の竣工時の形状を残すこととした。

5 想定以上の木材腐朽による工事の中断

平成30年3月に工事に着手し、耐震補強のため内外装材の撤去をした段階で、耐震診断及び設計時に想定していた以上の木材の腐朽が確認され、補強計画の見直しが必要となり、工事を中断した。

また、事業を進めるためには原因の調査が不可欠となり、調査報告書のとりまとめ及び修正設計完了まで工事を再開できないことから、工事内容を変更し、平成31年2月に工事を終了した。

この時点で仮屋根と軸組のみの状態(写真2)であったため、工事再開まで職員による定期的な目視点検を行った。



写真2 旧鎌倉図書館の工事中断中の状況

6 修正設計及び工事の再開

修正設計の受注者選定に時間を要し、令和2年度に木材劣化調査及び修正設計を行った。

旧鎌倉図書館は2階がスキップフロアとなって

いたこともあり、当初設計ではエレベーターは計画していなかったが、バリアフリー化の要望は高く、修正設計の段階で1階既存部を一部解体し、エレベーターを追加した(スキップフロア部分は人的対応のまま)。

修正設計に基づき、令和3年度に工事発注を行い、令和3年10月に新たな工事受注者により工事を再開した。

	旧鎌倉図書館	改修及び増築後
建築面積	161.95m ²	369.96m ²
延べ面積	340.42m ²	499.27m ²
各階面積	既存部	全体(うち既存部)
1階	161.95m ²	349.90(154.23)m ²
2階	138.81m ²	149.37(138.81)m ²
3階	39.66m ²	—
構造	木造	木造一部RC造、S造

表1 建物概要(改修前後)

7 改修及び増築後の建物の特徴

1)耐震性能

改修前の耐震診断結果では、上部構造評点が0.09であったが、学童保育施設等として利用するため、重要度係数1.25として計画し、補強後の上部構造評点は1.34となっている。

2)外部の保存部材の再利用

外壁仕上の劣化及び耐力壁の増設のため、内外装材はすべて撤去している。

瓦は現在主流のものよりも小さい瓦が使われていたが、打診検査により再利用が可能なものが10%程度であることが判明したため、大屋根については安全性確保のため防災瓦に変更し、目視可能な玄関屋根に既存瓦を再利用した。

三連窓や上げ下げ窓が外観の特徴となっており、分銅を用いた上げ下げ窓の半数程度を修理し再取り付けしている(写真3)。

腰壁タイルについては基礎部分は存置、土台よ

り上は耐震補強及び水切り設置のため撤去・新設とした(写真4)。



写真3 西側(玄関側)の外観



写真4 南側(今小路通り側)の外観

3)内部の保存部材の再利用

内部はアールデコ調の階段親柱や柱型、梁型などに特徴があるため、存置又は再利用としている(写真5)。

旧書庫部分は3階床を撤去し、小屋組を現しのままとしている(写真6)。

玄関については、過去の改修で改変されていたが、当初工事の解体において、床のタイルが残っていることが判明したため、修正設計時に、このタイルが見えるように床の一部をガラス張りとした(写真7)。

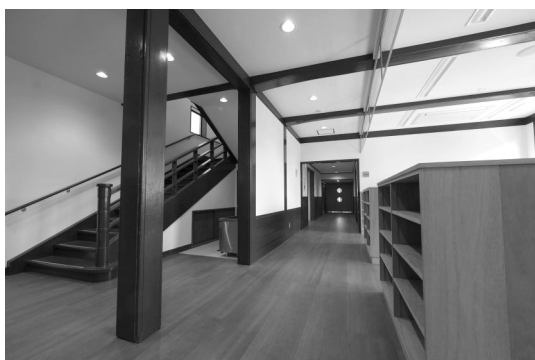


写真5 主階段及び廊下・図書室



写真6 旧書庫部分の小屋組と吹抜(3階床撤去)

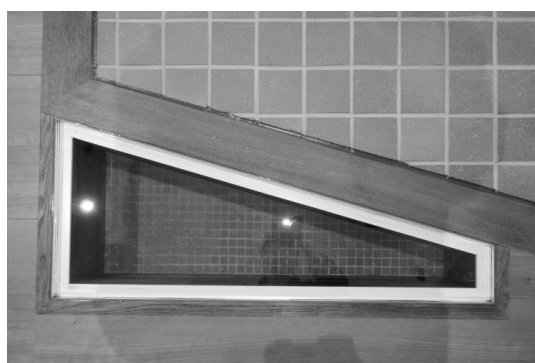


写真7 竣工時の玄関タイル(小口タイル)

4)増築部の意匠

既存部分も外壁仕上は新材になるため、増築部を旧鎌倉図書館を踏襲した外観とすると元の規模感等が曖昧になるため、増築部は既存部とは異なる意匠とし、位置も既存部よりも下げている(写真8)。



写真8 既存部の東側に RC 造増築部（写真右）

8 活用の状況

鎌倉市では、平成26年に国が示した「放課後子ども総合プラン」を受け、学童保育(子どもの家)とアフタースクール(放課後子どもひろば)を一体的に実施する「放課後かまくらっ子」事業を市立小学校校区に展開している。

旧鎌倉図書館は、令和5年3月の改修及び増築工事完了後、市立御成小学校区の「放課後かまくらっ子おなり」施設として、日々、多くの児童の放課後の居場所として活用している。また、児童の利用のない時間帯は、未就学児親子に遊び場として建物一部分を開放している。

建物内には、旧鎌倉図書館で使用されていた部材等を展示するスペース(写真9)があり、子どもたちを始め利用者が建物の歴史を感じられる工夫



写真9 当初部材などの展示スペース

をしている。

令和5年度は、子どもたちが、かつての旧鎌倉図書館で過ごすことに誇りが持てるよう、「おなりヒストリープロジェクト」と題して、鎌倉の歴史や敷地内の石碑、建物の意匠に親しみが持てるプログラムを実施した。

また、「おなりストリートプロジェクト」と題し、地域商店や保護者会に協力してもらいながら、子どもたちが前庭に花壇「おなりガーデン」をつくった。今小路通りを行きかう地域の方々が立ち止まり、季節の花々とともに建物を愛でられる環境づくりに努めている。

9 今後の役割

「放課後かまくらっ子おなり」では、令和6年度から、旧鎌倉図書館の竣工に多大な貢献のあった間島弟彦氏・愛子氏に敬意を表し「間島カップ」と称したゲームや運動の大会を実施しているほか、「おなりガーデン」で育てた花でしおりを作成して、地域の方々にプレゼントするなどしている。

子どもたちには、過去から受け継がれてきた歴史を感じながら、旧鎌倉図書館を使うことへの喜びや誇りを、また地域の方々には歴史的な建造物を子どもたちのための施設として使うことの意義をそれぞれ感じてもらえることを期待したい。

なお、旧鎌倉図書館は令和6年8月15日に登録有形文化財に登録されており、歴史的・景観的・文化財的な価値を継承していくため、適切な維持管理に努めていく予定である。

また、市有木造建築物の大規模改修は数十年行われてきておらず、旧鎌倉図書館が直近の事例であることから、ここで得られた知見、課題を今後の改修事業等に活かしていくことも大切だと考えている。

※なお、建物の一般開放はしていません。